

第2回 特別研修会

日時：平成30年9月30日(日)
場所：ステーションコンファレンス東京
講師：池田 雅彦先生、佐藤 昌美先生



岡田 淳 (栃木県)

9月30日(日)、ステーションコンファレンス東京にて、「第2回特別研修会」(講師：池田 雅彦先生(歯科医師)、佐藤 昌美先生(歯科衛生士)/池田歯科クリニック)が開催された。研修会当日は大型台風24号の接近に伴い、開催も危ぶまれたものの、当初の予定よりも多い歯科医師・歯科衛生士(歯科医師29名、歯科衛生士52名)が参集し、台風にも負けない熱気に包まれた。まずは池田先生が「力」の評価とコントロール」をテーマに登壇された。近年、「力」が歯周治療や修復物、顎関節症などに影響を及ぼすことは盛んに取り上げられているが、インプラントと「力」の関係については、世界的にも科学的な根拠はなく、臨床的経験に基づいた考え方が主流であることを述べられた。そのような状況のなか、池田歯科クリニックにおける試行錯誤の30年間の評価法や対応法の具体的な症例報告がなされた。「力」と一言で表したとしても、1、ブラキシズム、2、咀嚼時の力、3、嚥下時の力、4、その他の力、と様々なものが存在し、どのような種類の力が、どの程度影響を及ぼしているのかを診断することが大切であり、このうちとくに睡眠時のブラキシズムと咀嚼時の咬合力の評価法・対応法について、池田歯科クリニックに来院している患者らを対象とした臨床研究から得られた知見を報告し、実践的な力のコントロール方法について参加者と意見を交わした。

次に佐藤先生が「歯周治療におけるプラークコントロール」をテーマに登壇された。天然歯とインプラントにおける歯槽骨の変化の違いについて症例を提示しながら、目で確認するとともに、インプラントに備わっていない歯根膜・セメント質を理解したうえで、プラークの侵襲を受ける周囲の角化粘膜組

織に炎症が生じることを歯科衛生士の視点からわかりやすく解説された。さらに、インプラントはもともと体の中になく「非自己」という存在であり、防御機構が弱いためプラークや過度な咬合力などが加わった場合、天然歯とは異なる反応を示すことがあり、インプラント周囲炎への進行が早いため、歯科衛生士は、予防はもちろんのこと、その変化(歯とインプラント体の動揺度、上部構造の破損など)にいち早く気がつき、歯科医師に報告することが大切であることを述べた。加えて、プラークコントロールのスキル、とくにブラッシングにしぼり、動画を交えながら詳細に解説をされ、インプラント周囲におけるブラッシングも基本的に天然歯と同じように行っていることを説明された。セルフケアを中心とした歯周治療のみで、歯周状態が劇的に改善したケースを多数供覧され、会場は驚きと称賛にあふれた。

今回の講演会では、日々、さまざまな症例に挑んでいる歯科医師・歯科衛生士に対して「難しい症例の対応への困難性を解決するために、次の一手を考えることが大事である」という池田先生からのエールが印象的だった。また、両先生は参加者との質疑応答において歯周治療における基本治療の重要性と、「炎症」と「力」をコントロールするコンセプトを述べて講演会を締めくくられた。

